

歴史研究が深まるにつれて日本史は見直されている。研究成果を反映した「最新説」を、広く知られた「従來說」と比較しながら紹介する。

大石学・東京学芸大名誉教授は「『土農工商』は家を単位とした『役』の違いで、国家に対する『役』という意味では平等だった」と説く。武士は軍事や行政で国に奉仕し、農民は食料を生産、職人は物を作り、商人も流通を担った。武士が都合良く支配するために固定的な身分を作ったという説明も聞かなくな



江戸の身分制

江戸時代は、武士が支配階級をなし、農民は商人よりも高い身分に位置づけられた。かつて授業でそう習った大人は多いかもしれない。だが近年、教科書から「土農工商」の記述は減っている。

武士が支配階級だったとされているが、単純な上下関係だけではなかった。大石学・東京学芸大名誉教授は「『土農工商』は家を単位とした『役』の違いで、国家に対する『役』という意味では平等だった」と説く。武士は軍事や行政で国に奉仕し、農民は食料を生産、職人は物を作り、商人も流通を担った。武士が都合良く支配するために固定的な身分を作ったという説明も聞かなくな

「名字帯刀」は武士の特権とされるが、農民も名字を持っていたことがわかってきている。武士は政治を独占していたが、世論に気を使い、百姓から意見を求めることもあった。身分の垣根も柔軟さがあつたようだ。知識を生かすため武士に登用された農民もいれば、浄瑠璃作者の近松門左衛門のように、武士の家に生まれながら芸能者として生きた例もある。百姓の跡取り以外が町に出て

「悲惨な百姓」のイメージも、実像と異なることがわかってきている。なぜそんな

日本史

アツプデート

に序列なし

「名字帯刀」は武士の特権とされるが、農民も名字を持っていたことがわかってきている。武士は政治を独占していたが、世論に気を使い、百姓から意見を求めることもあった。身分の垣根も柔軟さがあつたようだ。知識を生かすため武士に登用された農民もいれば、浄瑠璃作者の近松門左衛門のように、武士の家に生まれながら芸能者として生きた例もある。百姓の跡取り以外が町に出て

参考文献：大石学「新しい江戸時代が見えてくる」など

(2021年4月27日 読売新聞夕刊より)

1 見出しの にあてはまる言葉を書きましょう。

2 次の事柄のうち、「従來說」にあてはまるものはア、「最新説」にあてはまるものはイを書きましょう。

- () 支配階級の武士が、固定的な身分制度を作った
- () 政治を担う武士に、農民が意見することもあった
- () 身分は「役」の違いで、「役」を変えた人もいた
- () 農民は年貢に苦しみ、悲惨な生活を送っていた

3 この記事について説明した文として、適切なものの番号を全て書きましょう。

- ① 従來說を学んだ人が記事を読むと、新たな知識を得られる内容となっている
- ② 筆者は歴史の専門家に取材したり、本を読んだりして、記事をまとめている
- ③ 武士の時代が終わったのは、身分制への不満が要因だったことを解明している
- ④ 日本史の研究が進むと、教科書の記述が変わる場合があることを示している